

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「日本株リスク・コントロール戦略ファンド（愛称：スマート・リターン）」は、2016年9月12日に第1期決算を行いました。

当ファンドは、わが国の金融商品取引所に上場する株式に投資を行うと同時に、「パークレイズ日本株エンハンスド・ベータ指数」を活用し、株価下落局面における基準価額の下落リスク低減を図りつつ信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。

ここに期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

### 第1期末(2016年9月12日)

基準価額	8,997円
純資産総額	141百万円
第1期	
騰落率	△ 10.0%
分配金(税込み)合計	0円

(注1) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ 「ファンド情報」 ⇒ 「当該ファンド」を選択 ⇒ 「目論見書・定期レポート等」を選択 ⇒ 「運用報告書(全体版)」より該当の決算期を選択ください。

# 日本株リスク・コントロール 戦略ファンド (愛称:スマート・リターン)

追加型投信/国内/株式

## 交付運用報告書

第1期(決算日2016年9月12日)

作成対象期間(2015年9月30日~2016年9月12日)

 **SBI Asset Management**

**SBIアセットマネジメント株式会社**

〒106-6017 東京都港区六本木1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間：営業日の9:00~17:00

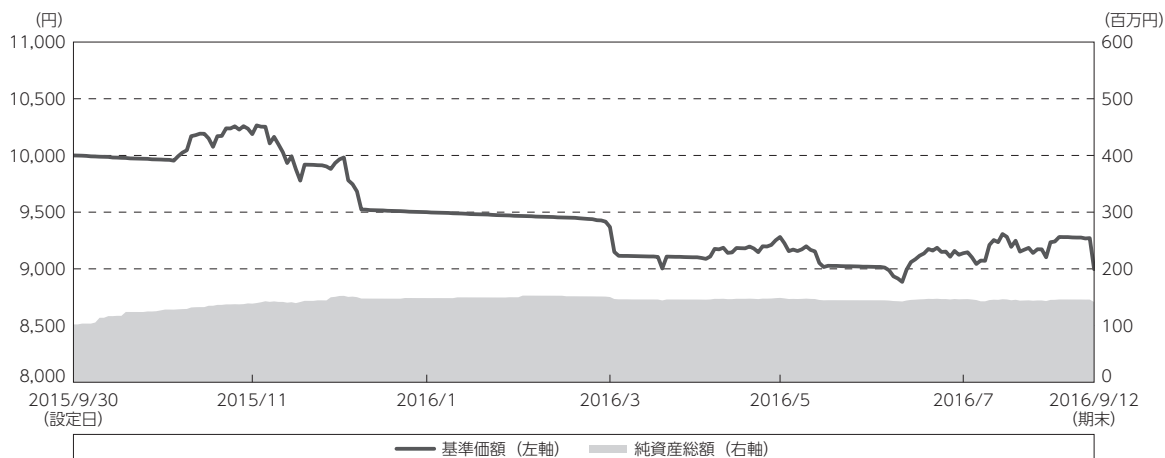
ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiam.co.jp/>

## 運用経過

## 基準価額等の推移

(2015年9月30日～2016年9月12日)



設定日： 10,000円

期 末： 8,997円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 10.0% (分配金再投資ベース)

(注1) 当ファンドは、パークレイズ銀行グループが開発・提供する「パークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数」に含まれる市場環境の判定シグナルを活用し、その判定結果によって機動的に株式の実質組入比率を変更するため、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していません。

(注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載していません。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドはパークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数の判定シグナルが示す株式市場への不安心理(ストレス)および株価トレンド傾向に基づき、株式の組入比率を調整しつつ運用を行いました。

パークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数の判定において、投資配分決定のためのシグナルとして、日経平均株価・日経ボラティリティ指数のトレンド判定を用います。今期は、日経平均株価・日経ボラティリティ指数の価格トレンドが、シグナルの参照期間と同等の期間で反転を繰り返す局面が多くみられました。

同指数が示す判定結果により、株式組入比率を0%に維持した期間が長期間に渡りました。大幅な下落局面で基準価格下落を軽減した一方、短期的な上昇ではマイナス寄与となりました。

## 1万口当たりの費用明細

(2015年9月30日～2016年9月12日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	135 円	1.421 %	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
( 投 信 会 社 )	( 74)	(0.772)	委託した資金の運用の対価
( 販 売 会 社 )	( 59)	(0.618)	交付運用報告書等各種種類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 3)	(0.031)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	81	0.854	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
( 投 資 信 託 証 券 )	( 81)	(0.854)	
(c) そ の 他 費 用	358	3.762	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 22)	(0.228)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
( 印 刷 )	(172)	(1.804)	開示資料等の作成・印刷費用等
( そ の 他 )	(165)	(1.731)	信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	574	6.037	
期中の平均基準価額は、9,523円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注6) その他費用には「パークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数」の使用料(1万口当たり156円)が含まれています。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2011年9月12日～2016年9月12日)



- (注1) 当ファンドについては設定日以降のデータが5年に満たないため、実在するデータ(2015年9月30日から2016年9月12日)のみの記載となっております。  
 (注2) 当ファンドは、設定日以降分配を行っていないため分配金再投資基準価額は記載しておりません。

	2015年9月30日 設定日	2016年9月12日 決算日
基準価額 (円)	10,000	8,997
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 10.0
純資産総額 (百万円)	102	141

- (注1) 当ファンドは、パークレイズ銀行グループが開発・提供する「パークレイズ日本株エンハンスド・ベータ指数」に含まれる市場環境の判定シグナルを活用し、その判定結果によって機動的に株式の実質組入比率を変更するため、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。  
 (注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。  
 (注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2016年9月12日の騰落率は設定当初との比較です。

**投資環境**

(2015年9月30日～2016年9月12日)

設定日(2015年9月30日)から11月にかけては、国内株式市場は概ね上昇基調で推移しました。日銀の追加緩和期待の高まりや環太平洋経済連携協定(TPP)交渉の大筋合意、2015年最大の新規株式公開(IPO)となる郵政3社の初値が、公募価格を上回り堅調に推移すると買い安心感が広がりました。欧州での地政学リスクの高まりが嫌気され、一進一退の動きが続いた局面もあったものの、総じて緩やかな上昇が続きました。

12月から2016年2月にかけては、下落基調となりました。欧州中央銀行(ECB)が追加金融緩和を決定したものの、小規模な内容に株式市場は失望売りが優勢となりました。その後、米連邦公開市場委員会(FOMC)で約9年半ぶりとなる利上げが決定されたことから上昇に転じたものの、年明けに中国の景気減速懸念に端を発した世界的な株安から日経平均株価は年初から6営業日連続で下落しました。その後も原油価格の安値更新を背景にリスク回避的な動きが強まりました。

3月から7月半ばにかけては値動きの荒い投資環境となりました。中国による追加金融緩和や原油価格の底打ちが好感され買戻された局面もありましたが、日銀金融政策決定会合で現状維持が決定されると、円高進行とともに株式は下落に転じました。その後も為替動向、原油価格動向、英国の欧州連合(EU)離脱の是非を問う国民投票、米国の利上げ時期への思惑を要因として、大きく上下に動く展開となりました。

7月半ばから期末にかけては、底堅く推移しました。米国の良好な雇用情勢、参院選での与党の勝利、日銀による上場投資信託(ETF)の買入倍増を受けて底堅く推移し期末を迎えました。

## 当ファンドのポートフォリオ

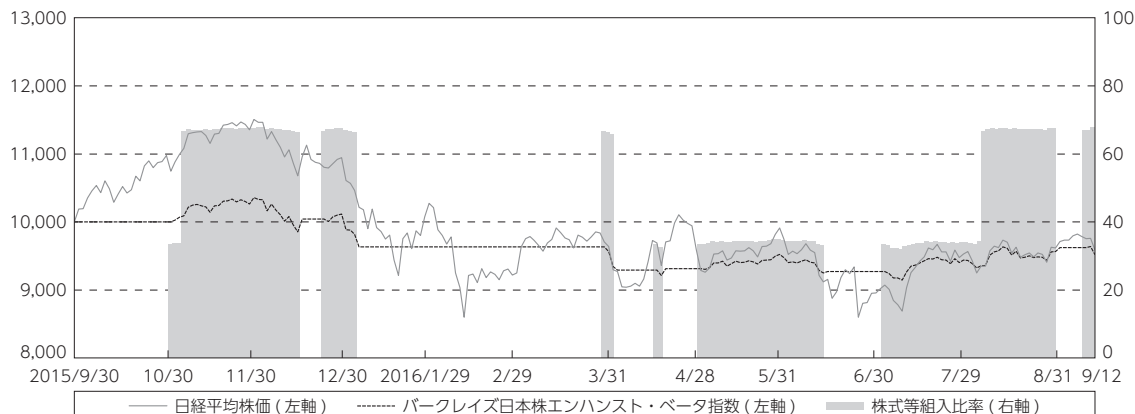
(2015年9月30日～2016年9月12日)

当ファンドは、バークレイズ銀行グループが開発・提供する「バークレイズ日本株エンハンスド・ベータ指数」に含まれる市場環境の判定シグナルを活用し、株式市場への不安心理（ストレス）が高まっていると判断される場合には、株式の実質組入比率を引下げ、ファンドの株価下落による影響の低減を目指しつつ運用を行いました。

株式の組入比率に関しては、相場局面に応じて0～100%の範囲で調整を行いました。

なお当期末の株式組入比率は67.7%となっております。

設定来の当ファンド株式組入比率等の推移



※出所：ブルームバークのデータを基にSBIアセットマネジメントが作成

※日経平均株価とバークレイズ日本株エンハンスド・ベータ指数は2015年9月30日を10,000として指数化しております。

※バークレイズ日本株エンハンスド・ベータ指数については、最終頁をご参照ください。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2015年9月30日～2016年9月12日)

当ファンドは、バークレイズ銀行グループが開発・提供する「バークレイズ日本株エンハンスド・ベータ指数」に含まれる市場環境の判定シグナルを活用し、その判定結果によって機動的に株式の実質組入比率を変更するため、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用しておりません。

**分配金**

(2015年9月30日～2016年9月12日)

当期は、当ファンドの収益分配方針に基づき、収益分配可能額を算出し、市況動向や基準価額等を考慮した結果、当期の収益分配は行わないことといたしました。

なお、収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## ○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第 1 期
	2015年9月30日～ 2016年9月12日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	—

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

**今後の運用方針**

引き続き、パークレイズ銀行グループが開発・提供する「パークレイズ日本株エンハンスド・ベータ指数」に含まれる市場環境の判定シグナルを活用し、株式市場への不安心理(ストレス)が高まっていると判断される場合には、株式の実質組入比率を引下げ、ファンドの株価下落による影響の低減を目指しつつ運用を行います。

また、株式の組入比率に関しては、相場局面に応じて0～100%の範囲で調整を行い、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

## お知らせ

該当事項はありません。

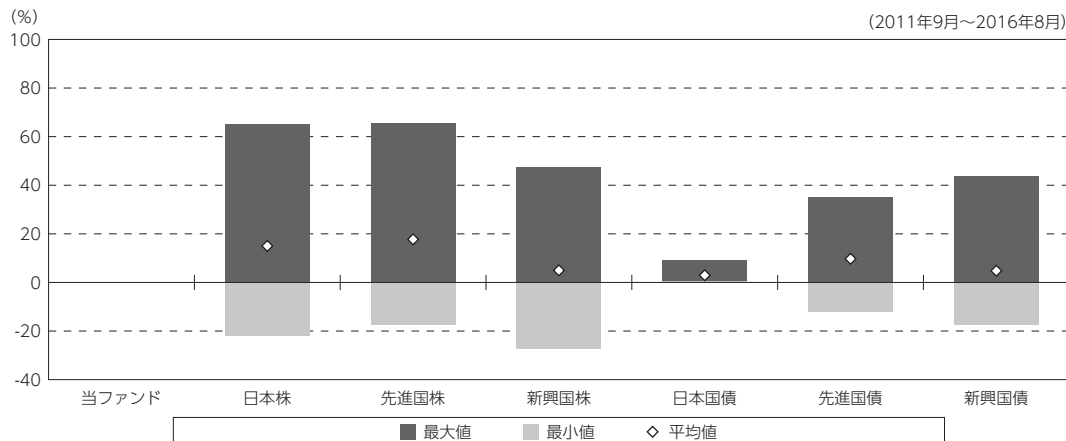
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	平成37年9月12日まで（設定日：平成27年9月30日）
運用方針	わが国の金融商品取引所に上場する株式を主要投資対象とし、「パークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数」を活用し、株式市場への不安心理（ストレス）が高まっていると判断される場合には、株式の実質投資比率を引下げ、ファンドの基準価額下落リスクの低減を図りつつ、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所に上場する株式を主要投資対象とします。また、主として日経平均株価を構成する現物株式、日経平均株価への連動を目指すETF（上場投資信託）への投資を行うとともに日経平均株価を対象とした株価指数先物取引などを活用します。
運用方法	パークレイズ銀行グループが開発・提供する「パークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数」に含まれる市場環境の判定シグナルを活用し、株式市場への不安心理（ストレス）が高まっていると判断される場合には、株式の実質組入比率を引下げ、ファンドの株価下落による影響の低減を目指して運用を行います。一方、株価上昇局面と判断された場合には、日経平均株価への追随を目指します。なお、株式の実質組入比率は、相場局面に応じて、0－100%の範囲で行います。
分配方針	年1回（原則として9月12日。休業日の場合は翌営業日。）決算を行い、原則として以下の方針に基づいて収益の分配を行います。分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）の全額とし、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して収益分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わない場合があります。また、将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。



## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	-	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	-	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	0.5	△ 12.3	△ 17.4
平均値	-	15.0	17.7	5.0	2.9	9.7	4.8

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2011年9月から2016年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 当ファンドについては、直近1年間の騰落率データがないため掲載しておりません。

(注4) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

## 《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI - KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA - BPI国債

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス - エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、P11の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2016年9月12日現在)

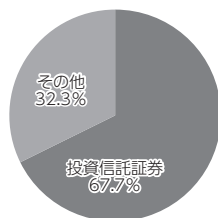
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第1期末
日経225連動型上場投資信託(野村)	67.7%
組入銘柄数	1銘柄

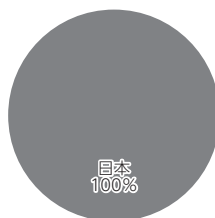
(注1) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

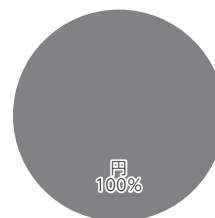
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注1) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

## 純資産等

項目	第1期末
	2016年9月12日
純資産総額	141,528,319円
受益権総口数	157,298,085口
1万口当たり基準価額	8,997円

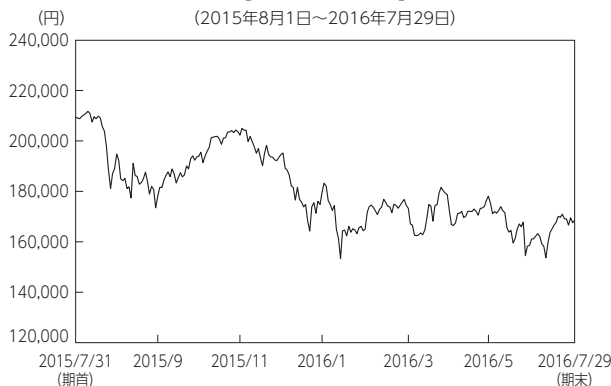
(注) 期中における追加設定元本額は59,767,913円、同解約元本額は4,491,277円です。

## 組入上位ファンドの概要

## 日経225連動型上場投資信託

## 【基準価額の推移】

(2015年8月1日～2016年7月29日)



## 【1万口当たりの費用明細】

入手可能な1万口当たりの費用明細のデータが存在しないため、掲載しておりません。

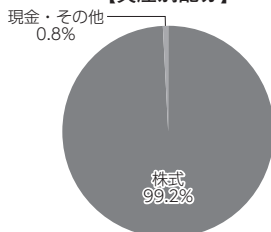
## 【組入上位10銘柄】

(2016年7月29日現在)

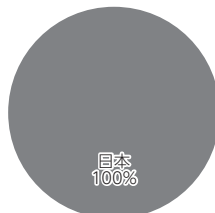
	銘柄名	業種 / 種別等	比率
1	ファーストリテイリング	小売業	7.8%
2	KDDI	情報・通信業	4.4%
3	ファナック	電気機器	4.1%
4	ソフトバンクグループ	情報・通信業	4.0%
5	京セラ	電気機器	2.3%
6	東京エレクトロン	電気機器	2.1%
7	ダイキン工業	機械	2.1%
8	テルモ	精密機器	2.1%
9	アステラス製薬	医薬品	2.0%
10	セコム	サービス業	1.8%
	組入銘柄数	225銘柄	

(注) 比率は純資産総額に対する割合です。

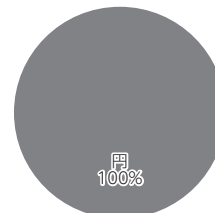
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2016年7月29日現在のものです。

(注2) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別配分は株式評価額の合計に対する比率です。

(注4) 国別配分は投資国を表示しております。

※野村アセットマネジメント株式会社のデータを基にSBIアセットマネジメントが作成

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

### ○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

### ○MSCI – KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI – KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

### ○MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

### ○NOMURA – BPI国債

NOMURA – BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA – BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

### ○シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

### ○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス – エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

## パークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数について

パークレイズ・バンク・ピーエルシー及びその関連会社(以下「パークレイズ銀行グループ」といいます。)は、リスク・コントロール戦略(以下「本戦略」といいます。)の策定者ではなく、パークレイズ銀行グループは、本戦略及び本戦略に基づくパフォーマンスについて、投資家の皆様に対して何ら責任又は義務を負いません。パークレイズ日本株エンハンスト・ベータ指数(以下「本指数」といいます。)は、パークレイズ・バンク・ピーエルシーが所有する商標であり、本戦略において使用するためにライセンスを付与しています。本戦略の投資家の皆様は、本戦略への投資により、本指数へのいかなる権利も取得せず、また、パークレイズ銀行グループとのいかなる関係も取得しません。本戦略は、パークレイズ銀行グループによって出資、承認又は推進されておらず、パークレイズ銀行グループは、本指数又は本指数に含まれるいかなる情報の推奨度又は使用に関して何らの表明も行いません。パークレイズ銀行グループは、本指数又は本指数に含まれるいかなる情報の使用又は正確性に関して、投資家の皆様又はその他の第三者に対して、いかなる形態においても何らの責任も負わないものとします。